

* 平成 22 年秋の躰道部の活動予定

今年はひどい酷暑が続き、私の本拠地である北海道でもつい先日まで狂ったような残暑が続いていましたが、こここのところようやく秋めいた気候になりました。内地（北海道では本州の事をこう呼びます）にお住まいの先生方におかれましてはまだまだ残暑が続いていると思いますので、体調管理には充分ご注意ください。

さて、前号で掲載した城北地区大会以後、医歯大躰道部は8月8-12日、越後中里にて夏合宿を行った後、9月6日より秋シーズンへ向けての練習を再開致しました。夏合宿等の詳細は、医科歯科大学のホームページ(<http://tmdutaido.client.jp/>)をご参照ください。

・秋シーズンの試合予定

本年、学生大会は例年通り綾瀬の東京武道館での開催ですが、昨年同様開催日が土曜日となっています。全日本大会は東京武道館ではなく BumB 東京スポーツ文化館での開催となっています。皆様におかれましては、時間の都合がございましたら大会の方へも是非足をお運びください。大会は医科歯科大学の OB であることを告げればそのまま入場できますが、事前にご一報いただければチケットの手配、プログラムの事前発送等を致しますので事務局宛にご一報ください。

* 第 4 4 回全国学生躰道優勝大会

日時 平成 22 年 10 月 9 日 (土)

場所 東京武道館 (綾瀬)

団体展開、団体法形、団体新人法形のほか男女個人法形、実戦に出場予定。

* 第 4 4 回全日本躰道選手権大会

日時 平成 22 年 11 月 14 日 (日)

場所 BumB 東京スポーツ文化館

団体展開、団体法形、および城北チームの一員として団体実戦に数名出場予定。

* 平成 22 年度仁雄会会費納入のお願い

酷暑が続いた本年度も秋となり、会費納入をお願いする季節になりました。現役部員は活発に活動しておりますので、引き続きのご援助の程、よろしくお願い致します。

会費は例年通り 医学部、歯学部卒 1 万円、パラメディカルおよび保健衛生学科卒 5 千円 となっており、同封の振り込み用紙でご納入ください。

加入者名 東京医科歯科大学 仁雄会

口座番号 00130-5- 36708

* 仁雄会創設 50 周年記念式典へ向けて

実は本年 2010 年が仁雄会創設 50 周年の節目に当たります。もちろん記念式典を計画していますが、諸般の事情により式典は来年 6 月ころを予定しています。次号で日程等の詳細を連絡する予定ですので頭の片隅にご記憶ください。

* 転居先不明の先生方

下記の先生方は転居に伴い現在連絡先が不詳となっています。もしお心当たりがありましたらメール等で事務局までご一報ください。

中島康雄 佐藤準一、下田益弘、佐藤栄吾 叶内 匡 鹿島田 健一 板倉 潤 金井美愛子 藤井敦子 井原信麿 新倉名緒子

* クラブ紹介「躰道部」 土浦協同病院院長 藤原秀臣

土浦協同病院院長、藤原秀臣先生（医 1 5、昭和 4 2 年卒）が医科同窓会報（No. 245, 2010 年 3. 17 発行）に躰道部の紹介文をお寄せになられました。先生の許可を得ましてここに転載させていただきます。

躰道部の紹介という事で一文を書くことになったが、私が書くのが適切なのかとの戸惑いはある。他に多士済々の先輩、後輩がいるのに申し訳ないとの思いがあるものの、私が「医科歯科大学躰道部」で躰道をやっていたことが知られていたのは嬉しかったのも事実である。とはいえ、伝統ある躰道部を同窓会報に載せるとなるとその責任もまた重大であり「気合」をいれて掛からねばならない。

私が「躰道部」（当時は「空手部」）に入部したのは昭和 36 年 4 月、医科歯科に入学して国府台牧場（市川市国府台の教養部）に放たれ、谷口興一先輩に遭遇したのがきっかけである。谷口先輩はその頃、医学部 3 年生で空手部の主将を務めており、聡明な智将の風格を漂わせていた。さて、躰道部について述べるには、まず最初に「躰道」と「空手道」について触れておく必要がある。

躰道を語る上で伝えなければならないのは、その前身である沖縄古流空手道の「玄制流」の存在である。玄制流最高師範は沖縄出身の孤高の武術家、祝嶺正猷先生である。祝嶺最高師範は昭和 30 年代にテレビで 36 枚の瓦割りを実演して見せて一躍有名を馳せた人物である。風貌は沖縄古武士の精悍、凄烈さを滲ませており、その技は人間というより野獣的でさえあり、鬼気迫るものであった。しかし祝嶺最高師範は沖縄本流空手道が大山倍達氏の極真会空手道の「けんか」空手により、「寸止め」の掟を破って、わざと動きが直線的、威圧的なものへと変遷して行く事に危機感を抱き、新たな道を模索していたのである。祝嶺先生は武道の根底には知的なもの精神的なもの宇宙的思想が不可欠である事を常に熱く説き、求道者の風格も備えていた。その祝嶺先生がどういう因縁か定かではないが、谷口先輩との知己を得て医科歯科大学に空手道の理念と武道の理想の形の追求を託した節がある。祝嶺最高師範は、事あるごとに谷口先輩を伴って全国各地の空手道演武会で組み手の披露や講演をしていたようである。そんな多忙の合間に新宿歌舞伎町の沖縄料理店で泡盛を酌み交わしては空手道談義に花を咲かせていたことを今でも鮮明に覚えている。

私が医学部 2 年で空手部主将を務めている頃だったろうか、祝嶺最高師範は旧来の空手道のからを突き破って、ついに「躰道」という新たな武道を創設したのである。躰道は「旋」「運」「変」「捻」「転」の体捌きを基本として体を自在に操る空手道本来の奥義を具現化したもので、武道と宇宙観を一体化した画期的なものである。正装では黒の袴を着けることになっており、日本古来の武道の格式と体の捌きの華麗さを追求している事も魅力的である。その理念は名著「躰道概論」に詳細に記載されているが、武道書というよりは哲学・思想書であり結構難解なものである。私は幸運にも空手道から躰道への移行期に遭遇し、躰道の原点ともなった「統位の法形」を最高師範から直々に試行錯誤しながら指南していただいたのである。この法形の演武で東医体において法形部門で 3 位に入賞した事は今でも私の誇りとなっている。しかし、躰道術技の中でも「捻」や「変」はかなりの修練と高度な身体機能の鍛錬が必要とされ、無垢の若い部員を中心に従来の概念を超えた画期的な技や理念を叩き込んで新たな武道を創造的に徐々に完成していったのである。祝嶺最高師範の理念は崇高で、創造性や自律性や社会変革を目指していて、躰道の術技と理念を一体化させる事が目標であり、鍛錬は論理的でもあり熱気をはらみ極めて厳格なものだった。

現在、躰道部はその前身である空手部創立以来 50 年の歴史を刻んできたが、最近では女性部員も多くなりその気風も変遷してきているようである。ある時代には新入部員が減少して大会出場も危ぶまれるような苦しい時期もあったようであるが、それぞれの時代に主将の責任感や部員の粘り強い努力で、現在も全国大会で活躍し存在感を内外に示して暮れているのは嬉しい限りである。躰道は武道として一般的な知名度は必ずしも高くはないが、世界中に愛好家は存在しており国際大会も開催されている。稀代の武道家であった祝嶺最高師範が青春の情熱を注ぎ、武道としての空手道の本質を追い求めた熱き想いが託されていた事を忘れてはならない。

そして谷口先生が創設した医科歯科大学空手道部に源を発する躰道部は空手道の本流を踏襲する歴史と伝統に基づいて、自己研鑽と社会還元を具現化する現代武道に営々と実践しているのである。

